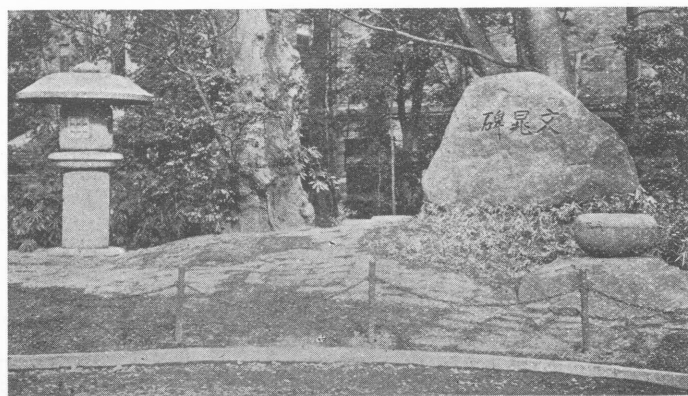


謀於美術學校校苑新構祀堂安先生遺像昭和六年十二月六日行除幕式像美術院
同人平栴田中所造祠堂美術學校建築科金澤庸治所設計監造也而經營董事横山
大觀最致力云 東京美術學校長正木直彦譯並書

文晁碑

最近上野公園の府美術館の南側東端、俗に二本杉と謂ふ一角の地域に、文晁
碑と鐫刻された巨大な自然石が据えられた。

是れは東京の書畫骨董商の主なる人々の組織してゐる七清會同人が企畫した
もので、もと淺草の源空寺の境内に在つた文晁碑が先年の關東大震災で全く粉
碎してしまつたのを惜しみ、三年程前
よりその再建を計畫し、昭和六年十二
月十四日が恰も谷文晁の命日に當ると
ころから、この紀念碑の除幕式を舉行
し、同時に正木美術學校長を會長とし
て文晁遺作展覽會を、當日より十二月
二十日まで府美術館に開催したのであ
つた。



碑石の材は地上高約一五七糎、横約
一八〇糎、奥行約一三〇糎もある筑波
石を用ひ、側面に堅六・八五糎、横三
四・二糎の銅板が嵌入されてある。石
面の題記は徳川家達公の揮毫に成り、
銅板面には左記の如くに、正木校長の
撰文並に揮毫の文晁小傳が陰刻されて
ある。(夏影)

谷文晁先生は近代不世出の畫宗なり寶曆十三年九月九日江戸下谷に生る家世
々田安府に仕へ父本備麓谷と號し詩名あり先生名は正安文五郎と稱す少時學

を家庭に受け旁六法を加藤文麗に學ひて文晁と號す又渡邊玄對鈴木芙蓉に從
遊す壯歲專其風を作る又西洋畫に仿ふ所あり後宋元諸家を祖述し狩野土佐の
風を參して南北合流を以て歸となす畫く所山水人物花鳥蟲魚往くとして可な
らざるなく意匠豐富圖樣清新なること寔に一世の偉材なり就中山岳に長し名
山圖會の名著は永く其範を貽すものにして其居を寫山樓と稱し又樂山と號す
るもの皆之か爲なり先生又畫學の造詣深く畫學大全本朝畫纂等の著書多し畫
學齋の號ある所以なり先生資性爽快度量宏潤絶倫の精力と天稟の健腕とを以
て畫技畫學を兼備するもの恐らくは古今に匹儔なかるへし先生夙に松平樂翁
公の値遇を受け公餘探勝集古十種の圖畫石山寺緣起の補寫の如き皆公の命に
依りて成れるものにして先生の驥足を伸へ得たるは實に公の庇護に負ふ所多
し從遊の徒多士濟々竹田杏所舉山靄厓永海草雲は其翹楚なり先生天保十一年
十二月十四日を以て歿す墓は淺草源空寺に在り今や先生逝いて將に百年なら
んとす而も源深きものは流遠し先生の餘澤は今尙綿綿として絶えざるなり茲
に豐碑を上野公園美術館の側に建て先生の功德を記して長へに流風餘韻を欽
仰せんとす

昭和六年辛未四月 東京美術學校長正木直彦撰并書

福原鏝二郎氏の薨去

前帝國美術院長福原鏝二郎氏は、昨年十一月病床に帝展廿五周年紀念式を迎
へた後、院長の地位を勇退され、爾後専ら療病に努めて居られたが、一月中旬
病革まり、同十七日午前零時四十分溘焉として薨去された。享壽六十有五。

福原氏の官界に於ける堂々たる閱歷、特に文部行政に於ける功績は今更賑々
の要を須ひないが、氏の美術界に對する貢獻も亦頗る大なるものがあつた。氏
の美術界に於ける功績に關しては他日稿を改めて詳述する機會を俟つ積りであ
るが、この稿を草する今日（一月十九日）は恰かも氏の斂葬の日に當るが故に
今氏的美術界に對する寄與の大體を略記して追憶を新たにしたい。

福原氏的美術界に關係せられたのは明治二十七年、參事官として奈良縣に赴